

えひめだいがくなんよすいさんけんきゅう

愛媛大学南予水産研究センター殿

平成20年4月開所

南宇和郡愛南町

■事績

日本の養殖業の中心地ともいえる愛南町に、地域と連携した最先端の研究拠点として設置。赤潮や病気の対策、免疫を高める技術、新たな養殖魚の開発、そして流通システムの改革と、強い水産業の確立に向けた様々な研究を進めている。

中でも、愛媛県と共同で完全養殖の研究を進めてきた小型のマグロ類「スマ」は、“全身トロ”といわれる味が自慢。天然物より早く成育する上、既存の養殖施設も活用できるため、収益性が高く、愛媛の新ブランド「伊予の媛貴海（いよのひめたかみ）」として、今年秋の販売開始を目指している。

漁業者の高齢化や後継者不足が進む中、日本を代表する専門家が付加価値の高い水産技術の開発に取り組むセンターは、「生命」「環境」「地域社会」と多様な観点から漁業の課題を見つめ、愛媛から水産の未来を発信する重要な拠点となっている。